



—コロナとデング熱—

法人管理部長 日向 登

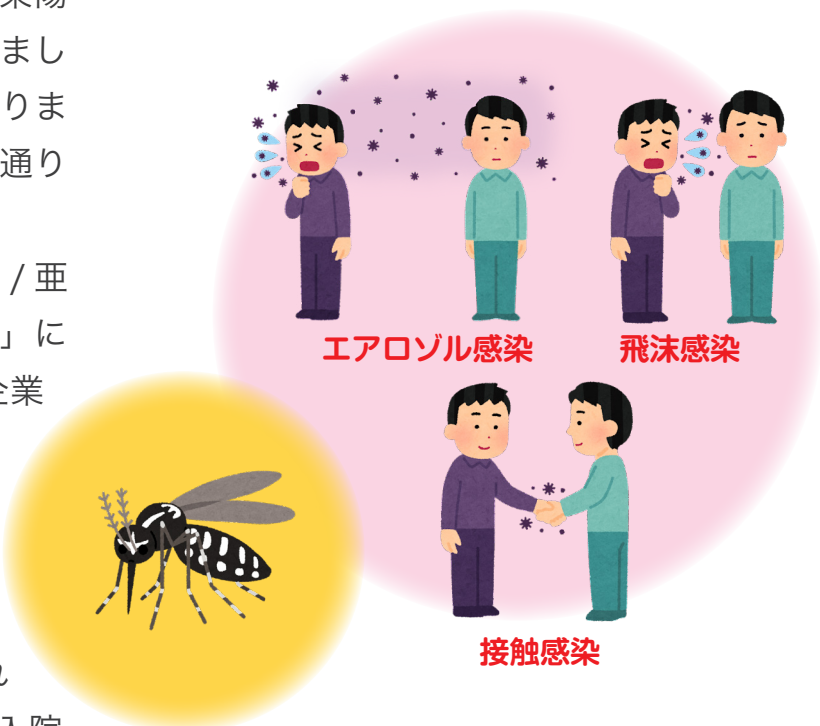
コロナ第7波は依然として猛威をふるい、国内で毎日20万人以上感染者が確認されており、全く収束の見通しが立たない状況です。今年は、行動規制なしのお盆休みとなり、この間の帰省、レジャーによる人の移動は地域によってはコロナ以前よりも多く認められたようで、お盆休み後のコロナ感染拡大が心配されるようです。

オミクロン株は、初めのデルタ株に比べ重症化率は低いものの感染力が圧倒的に強いようで、私は1月に3回目のワクチン接種を受けたにもかかわらず、残念ながら2月初めに発熱と倦怠感を感じ、PCR検査の結果陽性と判定され10日間の自宅療養に入りました。最初の3日間は37度台の発熱がありましたが、以後は熱も下がり大事なく予定通りに職場復帰することができました。

自宅療養中にちょうど30年前に熱帯/亜熱帯地域で発生する感染症の「デング熱」に感染したことを思い出しました。日本企業の東南アジア進出ラッシュの時期、タイに工場を新設し、やっと稼働にこぎつけて1年ほど経過したころ、友人A氏と今後の事業展開について夜遅くまで熱っぽく語った際に「シマ蚊」に刺されたらしく、翌日から40度の高熱を発し入院を余儀なくされました。高熱と皮下の出血により全身が真っ赤になり、食欲は全くない状態が5日ほど続き、1週間後に退院した時には体重が5kg減っていました。点滴以外どのような治療を受けたのか記憶にありませんが、退院の際タイ人医師より「あなたはラッキーだった。デング熱には4種類あり、あなたの感染したデング出血熱は脳で出血して死に至る患者が数パーセントいる」と聞かさ

れたときはぞっとしたのを憶えています。後に大笑いしたのですが、私の入院初日に見舞いに来て、「注意しなくてはダメだよ」と偉そうに言っていた友人A氏が翌日から発熱し同じ病院に入院となりました。

デング熱のように具体的に「蚊に刺される」ことによるウイルス感染はまだ判りやすいと思われませんが、今回のコロナのように感染力が強く、目に見えない**①エアロゾル感染** **②飛沫感染** **③接触感染**といった感染経路による感染症の管理は容易なものではありません。当院における感染管理現場の奮闘をもっ



デング熱とコロナのウイルス感染源の違い

てしても完全には防御できない現状をみるに、感染症との戦いは永遠に続くものと捉え、標準予防策を基本とした感染管理を組織を挙げて継続的に徹底を図り、感染が発生してしまった場合は定められたルールに則り適切な処置を行うことにより、感染範囲の最小化を図ることが極めて重要になります。

当院は、コロナに関しては**①発熱外来** **②ワクチン接種（武蔵野市民）** **③コロナ患者の回復期支援** **④自宅療養支援**を実施しております。今後も地域の皆様の健康・安心・安全な生活に少しでもお役に立てるよう感染管理の徹底に努めてまいります。

